

## ■自主解散による議会議員・市長同時選挙に対して反対する理由

市議会議員 松岡 唯史

議会議員選挙を市長選挙との同時選挙にするという議論が始まった背景には、本市における厳しい財政状況の下で同時選挙とすることにより、経費を削減することが最も大きな理由であると考えています。たしかに、同時選挙とすることにより選挙に係る経費が削減されることは理解します。

しかし、私たち議員は市民の皆さまから4年という任期で負託を受け、その任期の中で選挙において掲げた公約実現に向けて議員活動に努めています。したがって、たとえ選挙に係る経費が削減されるとしても、議員の任期は原則として守られるべきであり、その任期を自ら縮めてまで同時選挙のために自主解散をすべきではないというのが私の考えです。今回のような理由で同時選挙にすることは、議員と市長それぞれ独自の選任・解任をする市民の権利を抑え込むとも言えるのではないのでしょうか。

なお、本市の財政状況はここ数年で変わりつつあります。一時期の厳しい財政状況からは脱し、11億円余であった財政調整基金は30億円を超える勢いで積み立てられています。同時選挙による経費削減額が500万円とも言われており、決して少なくない額であるとは思いますが、議論が始まった当時の財政状況とは違うといえます。

また、近年の選挙において投票率が下落する傾向の中で、同時選挙により投票率のアップが見込まれるとの期待もあるようですが、必ずしも投票率アップにつながるとは言い切れず、議会議員選挙への関心が市長選挙と分散される、若しくは市長選挙に埋没してしまう懸念もあると考えます。

さらに、そもそも議員と市長は役割が全く違います。二元代表制の下、議員は議決機関、市長は執行機関としての役割があり、議員には市長が提案した政策をチェックする役割もあります。このように役割の違う議員と市長を同時に選ぶと、違いを理解して選んでもらうことが曖昧になってしまうことから、市民にとってかえって不利益となってしまいます。1つずつの選挙でそれぞれに政策を市民の皆さまに訴え、違いを理解したうえで選んでもらう方が望ましいのではないのでしょうか。

以上のことを総合的に勘案し、私は自主解散による議会議員・市長同時選挙に対して反対するものです。